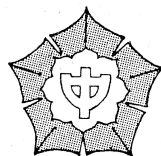


賞



校訓

郷土を愛し

明るく素直で

たくましく

文責：校長 川内康範

3学期がスタートして2週間

普段の学校の生活リズムに戻り、 じいじいと頑張っています。

2学期は大きな行事があり、それらに向けて大きなエネルギーを使ってきました。もちろん日々の授業にも取り組んでいるのですが、どうしても大きな行事が目立ってしまいます。その点、3学期は大きく日課を変えるような行事はありません。ですから、勉強に集中したり、読書をしたり、改めて自分を見つめ直したり、……「動」よりは「静」という言葉が似合う時です。この「静」の時期も大切です。何を考え、何を選択して、どう取り組むか、生徒一人一人の個性が出るのではないでしょう。個性が磨かれる時期とも言えると思います。



登山家の田部井さんという人を知っていますか？

『私には山がある』(田部井淳子)

という本を読みました。田部井さんは登山家で女性として世界で初めてエベレスト登頂を成し遂げた人です。(一昨年77歳で亡くなられています。)

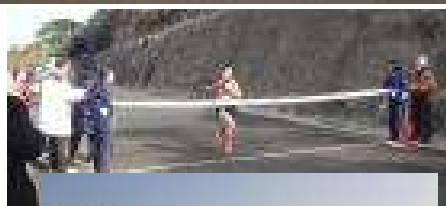


このころから何でもできる優秀な人だったのではないかと、と思いませんか？でも田部井さんはそうではありません。目次を紹介すると、「病弱な子ども時代」「運動は苦手だった」「コンプレックスだらけの青春」などの言葉が並んでいます。福島県出身の田部井さんは東京の大学に進学しますが、都会の生活になじめません。福島弁を気にしてうまくしゃべれずどんどん自信をなくします。ご飯も食べられなくなり3か月ぐらい休学して田舎に戻ったりもしています。その後大学に復帰した時、友達が歓迎のつもりで御岳山みたけさんにハイキングに誘いました。それがきっかけになって田部井さんは休みを利用して登山に行くようになります。就職しても週末は登山ばかり。山岳会に入り無二の親友と出会います。また、のちに結婚する男性とも知り合います。エベレストだけでなく、73か国の最高峰に登っています。72歳の時にはがんの治療を受けながら、東北の高校生と富士山に登るといふ活動もされています。はじめに紹介した「病弱な子ども時代」「運動は苦手だった」「コンプレックスだらけの青春」とは全く別人ですね。山との出会

いがその後の田部井さんの人生を充実したものに変えたのです。人は変われる、いつまでも成長し続けられる、と思いました。本を読んだ後、『私には山がある』というタイトルがものすごく力強く、説得力のある言葉に感じられました。

本から次の文章を抜粋します。

楽しかったこと、苦しかったこと、いろいろなことを刻みながら、こうして75歳を迎え、いまでも好きな山に登れる。生きていてよかったと思います。やりたいことをずっとやってこられたという、そういうふり返りができるのはよかったです、本当にいろいろな人に助けしてもらい、励ましてもらいました。



クラブ対抗駅伝フェスティバル大会と水仙ロードフェスティバル。どちらも一生懸命の走りで、子どもたちは輝いていました。豚汁もおいしかったですね。

